（熊本県立南稜高等）学校　平成２６年度学校評価計画表（自己評価）

１ 学校教育目標

本校の校訓「進取」「勤労」「礼節」の精神のもと、人権尊重の精神をすべての教育の基底におき、校長を中心とした指導体制のもと、生徒一人ひとりの教育的ニーズや学校評価等による課題の把握に努め、学校間及び学校と家庭・地域社会の連携を図るとともに、創意・工夫を生かした特色ある教育を展開し、生涯学習社会を展望して「生きる力」の育成を目指す。

２ 本年度の重点目標

学校目標スローガン

全ての生徒が輝く心身の健全な発育にもとづく確かな学力と豊かな心の育成

「目指せ君の・われらのＮｏ．１　夢の実現　～やる気、本気、元気、勇気～」

１　進路指導の充実　　２　中途退学者数の減少　　３　特色ある学校づくり

４　関係諸機関との連携　　５　広報活動のさらなる充実　　６　安心・安全な学校づくり

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	目標管理	学校目標の周知	学校教育スローガンの生徒及び保護者の認知度９０％を達成する。	育友会総会や学年集会、教室掲示、育友会新聞及びホームページで周知を徹底。	C	生徒８７％、保護者８５％、前年比１％減少。集会・ＨＲ等での話し込み。
	生徒募集	募集定員の確保	全ての学科において定員の５０％以上の生徒確保、食品科学科は１００％確保する。	各学科の魅力を発信、定期的な中学校訪問、生徒を引きつける体験入学の実施、部活動の交流をとおした募集活動。	D	前期２７人減、環境、普通科で５０％に届かない。食品科も５８％。募集活動の時期の見直し。
学力向上	授業改善	わかる授業の展開	生徒の８３％が「授業が理解できた」とする「わかる授業」の推進。	公開授業週間や研究授業で授業アンケートを実施。授業開始と提出物指導の徹底から学習意欲を高める。	C	「授業が理解できた」生徒８０％、授業改善の取組み強化が課題。
	学習習慣	欠席防止	６クラスで年間出席率９９．０％以上を達成する。	早期の登校支援を徹底する。欠席２日目担任家庭訪問、３日目保護者面談を実施する。	C	５クラスが達成保護者と連携し、原因解決が課題。
進路指導	進学・就職支援	生徒の掲げた進路目標を達成させる	進学、就職ともに進路目標の達成率１００％を目指す。	全学年で個別面談をおこなう。進学・就職課外や就職模試、面接講座等による対策強化。	B	内定１００％、目標値達成。早い時期の目標設定。
	企業訪問	求人開拓活動	１５件の新規求人積み増し及び定着率７５％を目指す。	各学年及びキャリアサポーターと連携し企業訪問を実施。卒業生の定着指導とあわせて求人活動を展開する。	A	求人２６１件増、内１４０件が新規、定着率は約９１％。定着支援の継続。
生徒指導	自尊感情	自己・他者肯定の向上	「自己・他者肯定感テスト」結果７０％以上が「自分が好き」と回答。	ボランティア活動等の校外で活動できる場を積極的に設定する。	D	「自分が好き」約３０％に留まる。全国の調査数値は３１．８％(2年生)。適切な目標値に修正し、取組みに反映。
	交通指導	二重ロックの徹底	自転車通学生二重ロック実施率１００％を各学期一回は達成する。	毎月２６日を二重ロックの日とし、交通委員による自転車点検やＨＲで周知活動を実施。調査結果を公表し施錠を徹底。	D	平均７５％と達成できず。二重ロックの日や交通委員の取組み不足が課題。
人権教育の推進	「命を大切にする心」を育む教育	命の教育・いじめ問題の防止と解決	「心のアンケート」結果７０％以上の項目で生徒の意識高揚を図る。	「命を大切にする心」を育むプログラムユニットの実施。 人権教育ＬＨＲ・講演会実施。	B	アンケート項目の８０％以上で向上。いじめの防止、早期発見が課題。
	適応指導・学習支援	中途退学の防止	進路変更者を１５人以下にする。	中高連携等適応指導の充実、週１回生徒支援会議の実施と就学支援体制及び研修の充実。	C	退学１７人、転学等進路変更が２人であった。問題行動の早期対応が必要。
特色ある学校作りの推進	食・農教育	食・農教育の推進	食・農教育アンケートにおいて生徒の９５％以上が意識を高める。	年間を通して農場を活用した食・農教育、寮へ食材の提供及び野菜栽培を実施。 お弁当コンテスト、屋外での弁当会食の実施。	C	農場、寮を中心に取り組んだが、９３％と目標数値を達成することはできなかった。
	地域連携事業	地域連携事業の充実	地域イベントや、小学生の栽培学習支援等地域連携事業へ全校生徒の５０％以上が関わる。	イベントやプロジェクト活動等地域と共同で取り組み、本校教育活動をＰＲする。 地域連携一覧表を作成し配布し参加を促す。	A	各学科で連携事業に取り組み、６５％が関わった。全生徒への呼びかけ、イベント精選が課題。

評価基準　Ａ：十分達成　Ｂ：概ね達成　Ｃ：やや不十分　Ｄ：不十分